

言語聴覚士

濱本 恵(はまもと めぐみ)

これまで言語障害のリハビリとしての機能訓練は言語療法士が行っていましたが、さらにレベルアップしたものとして10余年前に誕生したのが言語聴覚士(ST)です。今年3年目の濱本恵さんはこう言います。「脳卒中などは突然発症しますし、それまでの状態と落差が大きく混乱されてしまう方が少なくありません。それに、言語障害は目に見えない障害なので治療に工夫が必要です」

いずれにしても、まずはコミュニケーションが基本。言葉による会話はもちろん、文字、絵、ジェスチャーなど、いろいろな方法で取り組みます。たとえば脳梗塞の後遺症で人や物の名前を言おうとしても出てこない失語症や、発音に問題が生じる構音障害、脳腫瘍の手術後や頭部外傷後に新しいことが覚えられない、集中力が続かないなどの症状が出る高次脳機能障害、あるいはガンで喉頭を摘出した方の代償音声の獲得等色々な分野の患者さんに対するリハビリを行います。他にも、難聴児や口蓋裂で発音に問題のある子ども、ことばの発達が遅れている子どもの療育、訓練などを行うのも言語聴覚士の仕事です。「気分が落ち込んでいる方も多いので、接する私の側はとにかくモチベーション(ヤル気、元気)を上げるよう心がけています。だから、ちょっとヘコんでいる日でも患者さんには明るく接するようにしています」

医療に限らず、今後は介護、教育の分野をはじめ、言語、聴覚、嚥下(飲み込む)リハビリテーションのスペシャリストとして活躍が期待されます。「できなかったことが訓練で可能になる喜びを共感できることが一番のやりがいです。今後も、患者さんから様々なことを学ばせていただきながら、STとしてもっと成長していきたいです」

